



総務 常任委員会

野洲市の生活再建型滞納整理を調査

滞納は生活状況のシグナルである

委員長 笠原則孝 委員 齊藤嘉和 藤端宏和 川端眞男
副委員長 備前島久仁子 石川眞男

所管事務調査日：平成28年11月15日



滞納整理における基本姿勢を学ぶ



「おせっかい」が合言葉！総合相談窓口



市役所内に設置されたハローワーク

● 収納状況と基本姿勢

野洲市の収納状況は、国民健康保険税が滋賀県内中位、他の市税は県内上位である。公共サービスを支える財源は税、公共サービスの対価は料金、滞納の補填はいずれも税財源であることから、「滞納は生活状況のシグナル、市民生活を支える財源（債権）」と考え、市民生活を壊してまでの回収はせず、市民生活支援のきっかけにしていた。

● 生活再建型滞納整理

「野洲市滞納整理事務基準」の一部抜粋
・滞納整理の目標が滞納解消だけでなく、納期内納税者になってもらうことであるため、滞納者の実情に即した手段・方法で行うこと。
・生活困窮者については、家計相談、就労支援、債務整理等による生活支援も行うため、関係課と連携する。
市役所内に設置されたハローワークによる就労支援（平成27年度）
相談者数………1511人
面談件数………918回
就職決定者数……105人

まとめ

野洲市の滞納整理は、縦割り型行政から全課縦横の対応、ハローワークによる就職相談、専門家との連携などが実を結んでいた。悪質な滞納者には法令順守で対応する一方、滞納者の生活再建という目標に合わせた柔軟さ、寛容さ、多様さが特徴である。格差社会の進行で持てる者と持てない者が対立状況にある現代社会において、行政対応として大いに学ぶことがあると考える。



経済建設 常任委員会

福津市あんずの里の取り組みを調査

生産者の意識向上と経営感覚を持った運営を

委員長 石内國雄 委員 渡辺俊彦 浅見武志 筑井あけみ
副委員長 町田宗宏

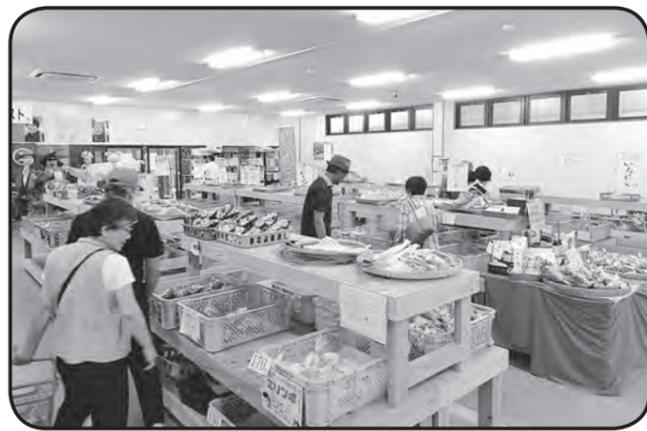
所管事務調査日：平成28年10月18日



熱意のこもった説明を受ける



人気の高いオリジナル商品



広々とした農水産物直売所

● あんずの里の概要

あんずの里は、あんずの里市利用組合が運営しており、地元で生産した農水産物や加工品の直接販売及び地元食材使用のレストラン運営を行っている。女性30人の仲間が軽トラックによる青空市から始め、平成8年に農産物直売所「あんずの里市」を開設した。各種イベントや地元自治体と連携した食農教育も行い、地域の交流・活性化の拠点となっている。

● 取り組みと成果

農水産物の生産販売だけでなく、商品開発・加工、伝統文化の継承、食農教育等を行う中で、消費者ニーズの把握・対応に努めてきた。
成果（平成8年～平成21年）
売上高………4倍に増加
雇用数………4人から26人に増加
来訪者数……11万人から40万人に増加
出荷者数……80人から300人に増加
平成17年に日本農林漁業振興会長賞を受賞

まとめ

軽トラ青空市を地域活性化の拠点に替えた女性パワーと、組合員の意識の高さを感じた。レストランではバイキング方式で人の手間を減らしており、直売所では「長野のりんご」の提携販売でリピーターを獲得していた。また、小目品大量生産から多品目少量栽培に軌道修正するなど、生産者が主体者意識で取り組んでいた。道の駅玉村宿においても、生産者の意識の向上、経営感覚を持った運営等が必要であると考えた。